2023年（令和５年）
９月９日
（土曜日）

THE KENSETSU MIRAI TSUSIN
建設未来通信

茨城全県版
発行所：茨城県水戸市笠原町1523-3
桂ビル２階
TEL:029-291-8855 FAX:029-291-8854
https://www.kensetsumirai.co.jp
新聞購読料 月額5,940円（税込）
電子版購読料 月額4,400円（税込）

豊かな地域環境開発を目指します
ISO 9001:2015認証取得
幸武建設株式会社
代表取締役会長 野口 幸治
代表取締役社長 野口 雅利
〒314−0143 茨城県神栖市神栖 4−5−31
TEL 0299−92−5881
FAX 0299−92−1988

いばらきの公共事業を紐解く

新県庁舎周辺整備について

渡邊 一夫 氏 × 袖山 茂 氏

元県土木部長（当時・県庁舎関連事業推進室長）
元技監兼常陸大宮土木事務所長（当時・県庁舎関連事業推進室係長）

開庁まで４年、事業遂行

平成11年4月の新県庁舎開庁から丸24年が過ぎました。

新県庁舎が建つ前は、林野庁所管の林木育種センターがあり、うっそうとした森のようでした。敷地内で20㎝もある松ぼっくりを見て、びっくりしたこと覚えています。開発公社が建っている場所には、樹高20ｍほどの立派なメタセコイアが群生していました。来庁者にも見ていただきたく、このメタセコイア群を何とか残してほしいと思っていました。今も現存しているものは、新県庁舎のちょうど中心で真北の場所にある、大きなユーカリの木が1本。今も、ユーカリの木を見ると当時を思い出します。

新県庁舎周辺道路整備事業に話を戻します。当時から時間がずいぶん経過してしまっているので、記憶違いがあるかと思います。

都市計画道路水戸駅平須線、県庁南大通り線は平成7年4月24日に都市計画決定がなされました。そして同年4月に、県庁舎周辺道路整備・土地区画整理事業を目的として、水戸土木事務所に県庁舎関連事業推進室が出来ました。

県庁舎西側の都市計画道路水戸駅平須線（国道50号バイパス～日産ディーゼル）L＝1250ｍ、W＝35ｍ（4車線、歩道7・5ｍ×2）、地権者数76人、家屋移転戸数23戸（大規模家屋14戸）用地面積1万8700㎡、南側の都市計画道路県庁南大通り線（水戸駅平須線～市道梅香下千波線）L＝1680ｍ、W＝40ｍ（4車線、歩道10ｍ×2）、地権者数25人、家屋移転4戸、用地面積3万500㎡、県庁周辺土地区画整理事業34ヘクタール、区画道路1～6号線L＝2005ｍ、W＝21ｍ～12ｍの整備などが、主な事業でした。

当時は、開庁までの4年間で周辺道路の整備・土地区画整理を完了させるという、大変なプレッシャーを抱えながら仕事をしたことを覚えております。前半の2年で用地買収を完了させ、後半の2年で工事を完了させるという、途轍もなく大きな仕事が目の前にありました。

最初の1年目は室長、用地担当係長1名、技術担当係長1名、新規採用者1名の4名体制で始まりました。4月に着任後、すぐに年間作業スケジュールを作成し、これからの作業工程を皆で確認したことを覚えています。立ち止まっている時間はありませんでした。

5月下旬には、最初の仕事として路線測量を実施するための地元説明会を水戸駅平須線、県庁南大通り線に分け、地区公民館で実施しました。

水戸駅平須線の説明会では、大規模な商業施設が多く立地していることから、会社関係の方も多く出席されておりました。家屋移転の時期や、代替地などについての意見がありました。

南大通り線の説明会の時には、林野庁の林木育種センターに隣接した静かな地域だったこともあり、騒音、排気ガスを心配する声があったことを覚えております。

その後、測量成果に基づき道路詳細設計に入り、土地収用法の対象事業となる都市計画事業認可を受けました。7月下旬には事業説明会を実施し、設計内容の説明をするとともに用地測量のための土地の境界確認の了解を得て、年末には補償額を提示できるところまでこぎつけることができました。

平成8年には、用地担当職員も4人体制となり、本格的な段階に入っていきました。3億円以上にもなる高額な補償費については、事前に建設省との協議も義務付けられていたと思います。（島津就子）

袖山 茂（そでやま しげる）
1950年12月1日生まれ。72歳。入庁時期は74年、水戸土木事務所に配属となった。その後、道路建設課高速道路対策室長、技監兼潮来土木事務所長などを経て、2011年に技監兼常陸大宮土木事務所長で定年を迎えた。

自動車交通の対応へ周辺を４車線化

期限が決められていて、安全・利便性はもちろん景観にも十分配慮しなければならない難しい事業を、職員の努力はもちろん、水戸市はじめ関係機関の協力、地権者様のご理解、請け負ってくれた業者さんの技術力と努力に助けられ、なんとか期限に間に合わせることができた、これはそんなお話です。（弊社HPトピックスに掲載）

景観に配慮した難事業

新県庁舎は、林木育種センターの跡地に建設されました。既存の樹木を活用した、緑豊かな公園の中にある庁舎となっております。最上階である25階には、地上100ｍの眺めが楽しめる展望ロビーが設けられております。

新県庁舎の住所は水戸市笠原町978−6。約15haの敷地は、西側に主要地方道水戸神栖線（2車線）が隣接しており、国道50号サントル千波交差点から約1・2㎞南に位置しております。また、水戸市が4車線化を進めている東側の梅香下千波線（通称さくら通り）とは、約1・7㎞の位置関係にあります。

新県庁舎の自動車交通に対応するためには、この水戸神栖線のサントル千波から約1・2㎞の4車線化、県庁の南側に面して、水戸神栖線から梅香下千波線までの1・7㎞（県庁南大通り線）に、4車線の新設道路が必要ということになったため、新県庁舎開設に合わせ急ピッチで整備を進めることになったのです。

当然、県庁の東側と北側合わせて800ｍの外周道路も、2車線の整備が必要です。また、まちづくりの観点から、育種センターから払い下げた残りの土地約10haも土地区画整理事業により造成することとなったのです。

これら周辺インフラ整備は土木部所管となり、道路は公園街路課、区画整理は都市整備課が主管課となりました。その他諸々の交差点改良等は道路建設課と道路維持課がうけもち、水戸土木事務所に県庁舎関連事業推進室を設置して対応することになりました。

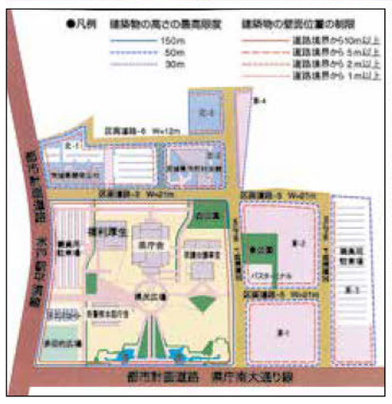
推進室では、買収単価の設置、補償調査、道路と区画整理の概略設計等にさっそく着手していったのです。

私は道路建設課で色々関わりを持っていましたが、平成9年3月、当時の総括技監に呼ばれ「渡邊くん、一番やりがいのあるところに転勤させるから」と内示をもらい、同年4月に3代目の県庁舎関連事業推進室長を拝命したのです。このとき、室員は私を入れて10名、このうち用地職員が4名でした。

色々な調整は概ね完了し、ほとんどの地権者さんと交渉を始めており、数件はすでに契約を取り付けてありました。しかし、「本格的にはこれからなんだ」と決意を新たにしたのです。

水戸神栖線は自動車のディーラー街であり、立派な社屋が立ち並んでおりましたが、いずれの社長さんも事業には非常に協力的で助かりました。各社さんの事情をお聞きしながら話を詰め、お盆すぎから少しずつ契約していただけるようになりました。

契約していただいた社には、急いで新しい社屋を建てていただき、旧社屋を取り壊していただけるようお願いして回りました。できることはお手伝いし、関係機関にも協力を要請して、皆さんに協力いただけたのも大きかったと思っております。



県茨城港湾事務所と茨城港（常陸那珂・大洗・日立）災害防止協会は1日、ワークプラザ勝田にて講習会を開催。約100人の参加者が県土木部発注工事や港湾工事の取り組みなどについて学んだ。

発注工事の取組など解説

講習会に100人参加 週休２日や遠隔臨場等

県茨城港湾と茨城港災害防止協会

冒頭、県茨城港湾事務所の高野享所長（写真右）は「港は重要なインフラであり、今回は工事をスムーズに行えるよう講習会を開かせていただくこととした。本日は建設工事必携の改訂や、土木部の新たな取り組みについて説明させていただく。港湾工事については浚渫などで週休2日の考え方が一般土木と若干違っているので、こちらも説明をさせていただく。本日の講習会が有意義なものになるようご祈念申し上げる」とあいさつ。

続いて、常陸那珂災害防止協会の大曽根文彦会長（写真左）が「高野所長のご厚意でより詳しく、現場で役に立つ講習をしていただけることとなった。ぜひ真剣に聞いていただきたい」と呼び掛けた。

その後は県土木部検査指導課の担当者が県土木部発注工事における主な取り組みを解説。建設現場の週休2日制の推進、建設工事必携の改訂、全ての建設工事でのICT活用、遠隔臨場、情報共有システムなどについて説明した。

県港湾課の担当者は港湾工事の取り組みについて解説。港湾・漁港工事における週休2日制促進工事の取り扱いやICT活用工事の対象について講義した。

▲約100人の参加者が理解を深めた

配電盤茨城と協定締結

工業団地のグリーン化へ

古河市／所属17社が連携

古河市（針谷力市長＝写真中央左）はこのほど、配電盤茨城団地協同組合（宇賀神清孝理事長＝写真左から2人目）と「配電盤茨城団地のグリーン化に向けた取り組みに関する協定書」の締結式を開催。古河市工業団地のグリーン化を図るモデル事業として協定を締結した。

この協定は、2050年カーボンニュートラルの実現に資することを目的としている。

市と組合所属17社が連携し、カーボンニュートラルの実現を効果的に実施、促進するために協議を行う。具体的な取組内容、実施方法については今後検討を進める。

同組合は、1962年に県で初めての中小企業高度化事業（工場集団化）による助成を受け、また通商産業省（現経済産業省）の指定モデル団地として造成・発足した。

境町内に事務所 設計施工は篠原

㈱冨張重機（境町下小橋210−1）は境町内に事務所を新築する。設計・施工は㈱篠原工務店（境町）。工事期間は12月10日まで。

建設地は境町浦向208−1ほか。敷地面積997・54㎡。西側は町道1−12号線に面している。

建物規模はW造平屋建て、延べ面積218・28㎡、最高高さは9・13ｍ。事務所兼車庫（W造平屋建て）、車庫（S造平屋建て）の2棟を整備する予定だ。

新保健施設など契約議案

建築は大昭・櫻井JV 8.2億

龍ケ崎市は9月議会に工事請負契約議案4件を提出した。このうち、（仮称）新保健福祉施設建設工事の建築工事は契約の相手方が㈱大昭建設・櫻井建設工業㈱のJVで、契約金額は8億2060万円（税込み）。

新保健福祉施設は、市民が生涯にわたり健康で安心して暮らして続けるための支援拠点として計画。建物はS造3階建て延べ床2712・48㎡。工事は建築・電気設備・機械設備の3分離で発注。電気設備工事は協進電設㈱・㈲松井電気JVと2億570万円で、機械設備工事は㈱関東エルエンジニアリング・㈲松村設備JVと1億7490万円で契約する。

また、佐貫3号線地盤改良工事（C工区）は、増川建設㈱と1億6258万円で契約する。

親水公園用水路 堆積土の撤去など

利根町補正案

利根町は町議会定例会に一般会計補正予算案（第3号）を提出。親水公園維持管理工事に117万7000円、保健福祉センター自動ドア交換工事に74万4000円を計上した。

親水公園では、北側の用水路に土が浸出したため、堆積した土の除去を行う。それとともに流出を防止するための整形工事も実施。

保健福祉センターでは、点検の結果経年劣化が見られる出入口の自動ドア1カ所を交換する。